

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第10回運営委員会議事要旨

- 1 日時：令和3年2月3日(水) 11時30分～12時25分
- 2 場所：オンライン (Web 会議システム Zoom)
- 3 出席者：林 (会長)、甘利 (副会長)、遠藤 (副会長)、佐波、長瀬、大野 (真城委員代理)、舟橋 (星川委員代理)、安部 (鎌田委員代理)、福島、岡部 (池田委員代理)、Li、岡島、石濱
陪席者：西田 (防災科学技術研究所)、松本 (〃)、倉谷 (〃)、丹羽 (〃)、袴田 (東急ファシリティサービス)、山本 (電力中央研究所)、松木 (産業技術総合研究所)、面 (筑波大学)、斉藤 (〃)、大塚 (〃)、秋葉 (〃)、鈴木 (〃)、根本 (〃)

(敬称略)

4 議事

議事に先立ち、林会長より、開会の挨拶があった。

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

(1) 令和2年度総会・運営委員会委員の追加・変更について

遠藤副会長から、資料1-1～1-2に基づき、今年度の委員の新規参画および交代の説明があり、原案のとおり承認された。続いて、新委員である真城委員代理の大野氏 (東急ファシリティサービス株式会社) 及び福島委員 (電子航法研究所) より挨拶があった。

(2) スリーエムジャパン株式会社の退会について

遠藤副会長から、資料2に基づき、スリーエムジャパン株式会社から退会届の提出があった旨の説明があり、原案のとおり退会が承認された。

(3) 令和3年度活動計画 (案) について

遠藤副会長から、資料3-1～3-2に基づき、令和3年度活動計画 (案) が示され、第15回幹事会で検討した次の候補日時を原案に追加することで、承認された。

- 第16回幹事会 候補日時：4月13日 (火) または20日 (火) の午前中
- 第4回総会 候補日時：5月11日 (火)、12日 (水)、18日 (火)、19日 (水)、25日 (火)、または26日 (水) の午後

(4) コンソーシアム新規参画予定機関について

遠藤副会長から、昨年10月の合同ミーティングに参加したフランスのグルノーブル・アルプス大学がコンソーシアム参画に関心を示しており、現在、参画分野・内容について調整中である旨の報告があった。また、次のとおり意見交換があった。

(佐波委員) 本コンソーシアムに参画することで、参画機関がどのようなメリットを享受できるかを考えていかなければならない時期に来ているのではないか。

(遠藤副会長) グルノーブル大学とは、コンソーシアムを活用した双方向の人材交流を検討している。具体的には、先方の学生が筑波大学に来る際に、日本国内の参画機関でインターン

シップを行ったり、逆に、参画機関の社会人学生がグルノーブル大学やフランスの機関で研究・インターンシップができるような仕組みを考えている。

(岡島委員) リスク・レジリエンス工学学位プログラムとしても、協働大学院教員・非常勤講師が担当する科目を、参画機関所属者にも視聴頂ける環境を整備していく。

(5) その他
特になし。

【報告事項】

(1) シンポジウムの申込状況・参画機関参加状況について

遠藤副会長から、資料4に基づき、同日午後に開催するシンポジウムに143名の事前申し込みがあった旨の報告があった。

(2) コンソーシアムと協力機関による合同ミーティング実施報告

遠藤副会長から、資料5に基づき、令和2年10月29日に開催された合同ミーティングについて、参画機関45名、協力機関16名の参加があり、協力機関とは今後も連携・協力を進めていく旨の報告があった。

(3) 第14回幹事会(R2.12.15)について

遠藤副会長から、資料6に基づき、第14回幹事会の議事について報告があった。

(4) その他
特になし。

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【報告事項】

(1) 令和3年度R²工学学位プログラムに係る協働大学院教員及び非常勤講師について

岡島委員から、資料7-1に基づき、令和3年度は協働大学院教員12名の任用の継続が承認された旨の報告があった。続いて、資料7-2に基づき、現時点で、非常勤講師に電子航法研究所・福島氏(新規)を含む11名をコンソーシアム参画機関から任用予定である旨の説明があった。

(2) 令和2年度「原子力規制人材育成事業」の採択について

遠藤副会長から、資料8に基づき、原子力規制庁の公募事業「令和2年度 原子力規制人材育成事業」に筑波大学が採択され、システム情報工学研究群R²工学学位プログラムと構造エネルギー工学学位プログラムを主体として5年間の事業を進める旨の報告があった。また、本事業は既存の教育体制を生かして両学位プログラムの中にコース(原子力規制人材育成事業教育課程)を新設するものであり、両学位プログラムに所属する学生が、要件を満たすことで筑波大学長名のコース修了証を取得できる仕組みであるとの補足があった。さらに、本事業は、協働大学院方式による教育体制発足後、初の外部資金による人材育成事業の採択となった旨の説明があった。

また、岡島委員から、資料9で星印を付した「原子力規制人材育成事業教育課程」対応科目に加え、現在さらに3科目の新規立ち上げ、及び公開講座実施を予定している旨の情報共有があった。

(3) 令和3年度R²工学学位プログラムカリキュラムについて

岡島委員から、資料9に基づき、令和3年度の学位プログラム開設科目について報告があった。また、今後新しい科目についての提案や要望があれば、岡島委員または事務局に随時連絡して欲しい旨の要請があった。

(4) インターンシッププログラム参加留学生の輸出安全管理面の取り扱いについて

岡島委員から、筑波大学の留学生が参画機関でインターンシップを行う際の輸出安全管理面の取り扱いについて、現状は各機関の判断に委ねているため、今後の対応を検討したい旨の提案があった。意見交換の結果、画一的な対応をとることは難しいため、今後も、留学生のインターンシップ希望者がいた場合には、その都度当該機関と個別相談しつつ進めることとなった。

(5) その他

- ・遠藤副会長から、参画機関のメリットになる教育研究活動を一層推進するため、コンソーシアムの活動についての提案や要望があれば、遠藤副会長、岡島委員または事務局に随時連絡して欲しい旨の依頼があった。佐波委員から、共同研究や学会発表等、研究面での具体的成果を挙げられると良いとの意見があった。
- ・甘利副会長から、Zoom会議参加時の所属機関名の表示について、構成員全員が分かるような名称として欲しい旨の依頼があった。

以上